

いじりかよこ
井尻 香代子

文化学部 教授
文学修士 / 神戸市外国語大学
文化学部長

🏠 ホームページ URL
なし

主な研究業績

- 「アルゼンチンに渡った俳句」丸善出版 2019
- 「国際ハイクと季語Ⅱーアルゼンチン歳時記の構築についてー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第50号 2017
- 「俳句の普及による価値観の変化」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第47号 2014
- 「スペイン語ハイクの韻律ーアルゼンチン・ハイクの音声分析からー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第46号 2013
- 「国際俳句と季語ーアルゼンチン・ハイクをめぐってー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第45号 2012
- 「アルゼンチンにおける日本の詩歌の受容について」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第44号 2011
- 「フェデリコ・ガルシア・ロルカと俳句ー『組曲』をめぐってー」『京都産業大学論集』『人文科学系列』第38号 2008

キーワード 人文学、比較文学、スペイン語ハイク

研究テーマ Research theme

スペイン語圏における
日本文学の受容に関する研究

概要 Overview

本研究テーマの目的は、スペイン語圏（スペイン、アルゼンチン、メキシコ）における日本文学の受容の経過と現在の状況の調査および分析です。とりわけ、1990年以降、出版、研究、コンクール、セミナーなどの活動が増加しているスペイン語ハイクに着目し、その生成のメカニズムおよび文学、文化への影響について考察しています。日本文学のスペイン語圏への影響は19世紀末から始まっています。その経路は二つあります。ヨーロッパのジャポニズムとラテンアメリカ各国へ渡った日本人移民の文化活動です。これらの経路を介して、アルゼンチンにおいては伝統的なジャンルから現代文学まで、広範な受容が行われてきました。そして現在、アルゼンチン・ハイクの生成、発展という新しい段階にいたっています。

しかし、ラテンアメリカにおける日本文学の受容については、スペインの文芸や出版活動を視野に入れて進める必要があり、書籍やインターネットを通じたスペイン語圏全域にわたる交流状況の把握に向けて調査を進めています。アルゼンチンにおける日本の詩歌の受容に関しては、そのプロセス、トピック、韻律の各側面から一定の研究結果を得られたので、現在は、アルゼンチンと並ぶスペイン語ハイク文芸活動の中心として、スペインでの現地調査と資料収集を中心に研究を進めています。

一方、スペイン語圏における日本の詩的ジャンルへの関心は近年さらに広がりを見せており、川柳、短歌、俳文、連句の研究およびスペイン語での実作も進んでいます。特に、連句制作を通して現地季語の収集の必要性が高まり、これをきっかけにアルゼンチン・ハイク歳時記の編纂が着手されたことは、異文化受容の深まりの観点から非常に興味深い現象です。スペイン語圏と日本の詩学の交流は、今後さらに新しい果実を生み出すことが期待されます。現地の研究者や実作者との交流を通じて丁寧に研究を進めていきたいと考えています。



2014年『連句』セミナー（トクマン国立大学）



『アルゼンチンに渡った俳句』2019年刊

応用分野 Application areas

スペイン語圏における俳句、連句、川柳、短歌など、日本の詩的ジャンルの受容による国際交流について、国内外のセミナー・講演を担当できます。

共同研究等へのニーズ Need for joint research

2014年に国際交流基金「文化芸術交流海外派遣助成プログラム」の助成を得て、京都府連句協会及び東西国際財団（ブエノスアイレス）と連携し、「京都府連句協会『連句』アルゼンチン・レクチャー・ワークショップ」を四つの現地大学で開催しました。

2019年より、熊本市及び「草枕」国際俳句大会実行委員会と連携して、「草枕」国際俳句大会の外国語部門（英語・中国語）に新たに「スペイン語部門」を開設しました。当大会は24年間にわたって国内外の俳句振興に寄与してきた実績を持ち、今後一層の世界展開が期待されています。

今後も国内外の文化芸術団体と連携し、交流研究・事業を推進したいと思っております。